

2020 年度実施概要

学校名

羽村市立武蔵野小学校

採択活動名

「20 才のわたしたちへのメッセージ ―わたしたちにできること―」

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 「20 才のわたしたちへのメッセージ ―わたしたちにできること―」	第 4 学年	総合的な学習の時間
2.		
3.		

取り組みの概要

本単元は、学習指導要領「総合的な学習の時間」第 2 章第 2 節 1（2）を受け、設定した。SDGs を切り口に、環境課題を「自分ごと」として捉え、解決の過程を経ることで持続可能な社会の創りに必要な資質・能力を身に付けるようにすることをねらいとしている。

第一次においては、子供たちは、「10 年後の地球」について想像することから、SDGs の 17 項目と出会う。SDGs についてもっと調べたいと考えた子供たちは、SDGs の項目を 1 つ選び、その目標に関連する環境課題について本やインターネットで調べ、SDGs 新聞の作成を行う。子供たちは友達と作成した新聞を紹介し合い、共通点や相違点を見出す活動を通し、「自分たちの生活の仕方が、環境課題を引き起こしているのではないか」という仮説を立てた。

第二次では、子供たちが日頃から使用している「水」に着目させ、「にごった海水」「にごった川の水」「透き通った水道水」等を見比べる活動を通し、「わたしたちの水は、どこから来ているのか」という疑問をもつ。そこで、社会科の浄水場見学の実施や海洋汚染について研究しているゲストティーチャーによる出前授業を受ける。社会科見学から浄水場の仕組みを学び、海の博士から、水の循環についてやマイクロプラスチックについての情報を得た子供たちは、水と海がつながっていることに気付く。子供たちは、海洋汚染の原因が人間のこれまでの生活様式から起きていることと結び付くことが分かり、自分の解決したい課題を絞り込んだ。

第三次では、海洋汚染の原因をもとにし、SDGs に関連する様々な環境課題の解決を目指して、自分たちの行動を変えるための具体的な解決策を考える。一人一人考えた解決策をもとに、「未来の自然を守るため」の作戦を立案する。指導者は、作戦を交流させ合う際、思考ツールを用いて作戦を分類する活動を組み入れ、「作戦同士がつながっている」「どの作戦も海を守ることにつながっている」「どの作戦も必要な作戦である」等の気付きを引き出すことで、作戦の実践の必要性を実感することができるようにする。また、作戦と環境課題との関連を可視化し、SDGs のどの目標と関連するかを考えさせることで、作戦が SDGs 目標とつながっていることにも気付かせ、実践の必要感を高めるようにした。

第四次では、第三次で考えた作戦を実践するにあたり、社会科で学習した八丈町立三根小学校の4年生に向けたプレゼンテーションづくりに取り組む。発表の前に、実際に作戦を試してみる活動を通し、児童の「自分たちも、三根小の子供たちも実践するために、誰にでもできるように考えを見直したい」という思いを引き出す。発表を経てフィードバックをした後に、次年度へ向けて取り組みたいことを考える。学習のまとめとして、ドキュメンタリー映画「プラスチック・ストーリー」を視聴し、学習全体の振り返りを行い、自分の良さや可能性に気づき、次年度の学習につなげる。また、今後の自己の生き方や未来の社会の在り方について考えることができるようにした。

このように、第一次から第四次の探究の過程を経て、子供たちに相手意識をもたせる手立て・実体験を伴う活動を仕掛け、課題解決の必要感をもつようする。これらの活動を通して、児童がSDGsに関する課題を自分ごととして捉え、自分の行動を変えながら、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を身に付けていく。

第五次では、10年後の20才を迎えるこどもたちとSDGsのゴールが重なることを結びつけ、10年後の自分に手紙を書く。その手紙は、10年後に本人に届くよう設定した。

活動中の写真：別添資料